

目的 家族の人間関係において、親子関係は非常に重要な要因であり、たとえ婚姻を解消したとしても親子関係は解消できない。親子間のコミュニケーション成立の困難性は時代を越えた課題であるが、現時点での“母親”についてのイメージが子世代(大学生)とその親世代でどのように異なるかを明らかにすることを目的として調査・分析を行った。

方法 被験者：大学生世代103名(男子学生59名、女子学生44名)、その親世代85名(50才前後、女子学生の父親41名と母親44名)計188名。

調査方法：「母」という語の意味分析をするために、被験者に24対の対語を提示し5段階評定を求めた。例、明るいーーくらい、おこりっほいーおだやか。

結果 「父親像」についてSD法による分析を試みた先行研究(1998)では、3因子が抽出され、因子負荷量の高い順に、第一因子は<民主的友人関係>の父親、第二因子は<権威主義的関係>の父親、第三因子は他の2因子に比べ寄与率は微弱であるが<支援的保護者>の役割をとる父親と名づけられた。世代間比較をすると、第2因子で親世代の方が学生世代よりも寄与率が高いという結果がえられた。本研究では、「母親像」について同様の分析を試みたところ、3因子が抽出され、父親像と対応して<民主的友人関係><権威主義的関係><支援的保護者>の母親として解釈が可能であり、第三因子の寄与率は父親像の結果よりもさらに低いものであった。世代間の比較の結果も同傾向であったが、学生の寄与率を男女間で比較すると、男子学生の場合には第2因子が女子学生に比べかなり低く、母一息子関係と母一娘関係の相違が示された。